

トライアングル

2022
冬・春号

発行日／令和4（2022）年4月 発行／一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者／松上利男 編集／松嶋桂子
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

機関誌トライアングルでは、過去4号に渡ってコロナ禍における施設からの視点を中心に情報を掲載してきましたが、今回は利用者側からの視点に立ち、障害福祉サービスを利用している当事者が、コロナに感染したことで大きな不安を抱えた地域生活が10日間に及んだ点に着目しました。

利用者A氏（以下、A氏）は、多機能型事業所内（以下、日中事業所）の生活介護に通所しています。ご家族と2人暮らしをしています。ご家族は入院しており食事や入浴、服薬など日常生活を行なうことが難しく、健康上の心配もあるため

地域生活を送る日常が コロナ陽性になった途端、 不安な地域生活に一変した

管轄保健所へ問い合わせましたが、肺炎などの症状がない場合は入院の延長は不可であり、ホテル療養についても身辺自立や希望の有無が条件になると返答がありました。市役所からは、通院時に付き添わずに救急車を呼ぶべきではないかと指摘を受けました。

退院後のA氏のサポート体制は、各関係者で集まり検討した結果、1日5回の実施で各15分の時間で、食事・清拭・更衣・洗濯など身の回りの支援を分担しました。

今回の現状から問題提起したい点がいくつかあ

居宅介護と、夜間については自費による夜間支援対応でサポートが入っています。週末は、日中事業所内の短期入所を利用しています。

そんな中、別事業所の短期入所から帰宅した夕方に発熱症状が出て、翌日、日中事業所職員がA氏に付き添って医療機関を受診、抗原検査で陽性診断を受けました。ドクターからは、自宅療養か抗治療法入院（1泊2日）の選択肢を挙げられ、自宅支援の体制がとれないため入院となりました。



ります。1つ目は、コロナ陽性者になると障害福祉サービスは使えなくなり孤立してしまうことです。居宅介護事業所や訪問看護ステーションの中でもサービス提供を拒否する事業所もあると伺いました。2つ目は、医療と福祉にもサービスの隙間があり、セーフティネットが果たせていない状況が起きていること。最後に、安心できる地域での生活は誰もが望むものではないでしょうか？それが守られてほしいと強く感じました。

（広報委員 吉岡裕幸）

地域生活を送る日常がコロナ陽性になった途端、不安な地域生活に一変した……………	1
大阪府社会福祉施設等感染症予防重点強化事業を利用して……………	2
令和3年度研修実施報告……………	3

●ちょっとつばやきリレー●	
てらサポート 主任生活支援員 杉田勇次……………	3
令和3年度 障害者支援施設部会 サービス管理責任者情報交換会……………	4
第57回近畿地区知的障害関係施設職員研修会……………	4

大阪府社会福祉施設等 感染症予防重点強化事業 を利用して



様々な生活パターンのご利用者が
共同生活を送り、スタッフも交代制
勤務であるグループホームでは、感
染予防をやってやり過ぎる事はない
と思います。

ホーム内にウイルスを持ち込まな
い事が第一ですが、これだけの感
染者が確認されている現状では、完
全に防ぐ事は困難であると思います。

感染予防マニュアルに併せて、感
染者発生時の事業継続計画を当グ
ループホームでも整備をしており
ますが、「この内容で本当に良い
のか?」「改善すべき点は無いの
か?」など、支援の現場では不安が
生じる事も事実です。

当ホームの感染予防対策にアドバ
イスを受け、現場の不安を解消する為
に大阪府社会福祉施設等感染症予防
重点強化事業として、令和3年10月に
大阪府看護協会から感染管理認定看
護師さん2名にお越し頂きました。

マニュアルや事業継続計画は整備
されているだけでは意味が無く、そ
の通りに動く事が出来るかの確認が
必要。特に防護ガウンやフェイス
シールド等を装着しての介護は、動
きにくさや体力消耗に起因して、予
期せぬ事故に繋がるリスクが上がる
事から、その点の訓練の重要性を強

く指摘されました。

実際、防護ガウンやフェイスシ
ールドを着用しての支援は、予想以上
に暑く、動きにくさを感じるとの意
見が多数挙がりました。

感染者発生を想定したゾーニング
のシミュレーションとして、実際に
生活空間や活動時間帯を分けた支援
を実施しましたが、ご利用者もス
タッフも大きな混乱は無く実施出来
ました。

感染リスクが格段に上がるのはや
はり食事場面との事で、感染状況が
拡大し始めた頃から実施している食
事時間をずらす、席の間隔を空け
る、スタッフは休憩室で食事を摂る
といった対応が今は必要なんだと再
認識する事が出来ました。

換気の目安や日々の消毒、手洗
い、手指消毒の励行もご利用者にも
スタッフにも分かりやすく提示する
事が重要との事で、共用部には二酸
化炭素測定器、洗面所には手洗い方
法の掲示や消毒液の設置もしており
ます。

共用部の消毒については場所や実
施していたタイミング、回数を確認
して頂き、ご利用者が発された後
と、就寝された後の1日2回を目安
に実施しております。

日々の健康管理も単に検温だけで
は不十分とご指摘を頂き、発熱以外
に咽頭痛・鼻水や咳、下痢などの症
状を日々の健康観察項目に追加しま
した。

認定看護師さんからのお話で、「ク
ラスタールが起るとスタッフが陽性
者・濃厚接触者となり、出勤出来な
くなる。高齢の世話人さんは感染を
懸念して離職するケースもある。ご
利用者の支援に手が回らず、人とし
て最低限の生活を維持出来なくな
る。それが新型コロナウイルスです」
という言葉が非常に心に残りまし
た。そうならないためにも予防を徹
底し、疑わしき症状があれば、スタッ
フは積極的に休む。ご利用者に感染
が疑われる場合は、感染者として対
応を取る。初めに厳しい感染対応を
取り、徐々に対応を緩める。これが
原則のようです。

今回受講の内容は、法人各施設の
施設長に口頭、および書面で伝達し、
法人全体での感染予防意識を高める
事にも役立ちました。お忙しい中、
貴重なアドバイスを頂き、本当に感
謝しております。

(社会福祉法人摂津肴和会地域生活支
援センターみきの路施設長 藤重樹)

令和3年度研修実施報告

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり、Zoomを活用したオンライン研修を2回開催しました。

8月26日「自閉スペクトラム症（ASD）の特性理解と支援」をテーマに（社福）一羊会カノン今津管理者の安田文彦氏に講義いただき協会会員施設新任職員（概ね3年未満）79名が参加しました。前半は障がい特性の理解、特性に応じた支援の在り方について基本的な考え方を学び、後半には支援の実例、事例を具体的に紹介していただけたことから、参加者は支援現場をイメージしながら受講できたことと思います。

10月1日には、大阪府において令和3年度より事業化され、取り組みが進められている「重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業」についての実践報告会を開催しました。

この事業を受託している（社福）北摂杉の子会相談支援・人材育成研修部部長の山根和

史氏にコーディネーターとして登壇いただき、事業の説明後、大阪府内3事業所による実践発表を行いました。参加者26事業所46名の職層幅は広く、管理者級にとっては、施設コンサルテーションの意義について知ることができ、また、支援員にとっては、コロナ禍では難しい他事業所の実践を聴く貴重な機会となりました。

令和3年度は対面型の研修を開催することはできませんでした。オンライン研修後のアンケート等で参加者や担当していただいた講師の方々の声には、「対面型の方がいい」というものがあることは事実ですが、一方、自宅や職場で受講できる、また、遠方、府外の方にも講師を依頼しやすい等オンライン研修ならではのメリットもあります。令和4年度についても、感染の拡大状況を確認しながら、会員のみなさんにとって有意義な研修を計画していきたいと思っています。

（研修委員会 川上隆弘）



INFORMATION

総会案内



令和4年5月26日（木）に令和4年度一般社団法人大阪知的障害者福祉協会総会の開催を予定しております。今年度は対面形式で大阪府社会福祉会館501号室にて行います。総会終了後の研修会はテーマ「虐待防止委員会設置義務化等について」（仮題）で北摂杉の子会の平野貴久氏に講師をお願いしています。但し、新型コロナウイルスの感染状況によっては対面での総会は中止で書面審議、研修会はオンライン研修へ変更も想定しています。

ちょっと

つぶやき...

リレー

てらサポート 主任生活支援員 杉田勇次

私は現在、かたの福祉会からサポートで生活支援員として働いています。てらサポートでは生活介護事業と短期入所事業と日中一時支援事業を行っており、軽度から重度までの知的障害のある利用者が通所しておられます。現在、課題となっておりますのは利用されている方の高齢化が進んでおり、身体機能の低下が見られる利用者が増えておられることです。また、新型コロナウイルスの影響で外出する機会が減り、運動不足になる利用者もいらっしやいます。その中で、てらサポートではリハビリの中でレクリエーションを通して楽しく身体を動かしながら身体機能の維持を図る取り組みを実施しています。レクリエーションでは大縄跳びや椅子取りゲームなどを行うと、楽しい雰囲気の中で笑顔が多く身体を動かす姿が今まで以上にみられるようになりました。さらには、普段大人しい利用者の方が真剣な表情で取り組まれるなど、楽しい雰囲気を利用者に影響を及ぼすことを実感しています。また、ご家族の高齢化が進んでいるのでご家族に対してのケアが必要と考えています。ご家族の小さな声にひとつひとつ丁寧に寄り添うことで利用者ならびにご家族と一緒に心が躍るような、より良い支援を行っていき



たいと思います。

次回は隆光学園のファミ・ティ・フォン・リンさんとノン・ティ・ティエブさんにお願いします

令和3年11月26日（金）、大阪府社会福祉会館405号室にて、サービス管理責任者情報交換会が開催されました。管理者を兼務されている方や、サービス管理責任者になって間もない方、これからサービス管理責任者を目指す方など、17事業所・21名の方が参加されました。前半は金瀬真弓部長と北村友隆副部長より、情報交換会を開催した経緯と、これからの障害福祉サービスのあり方と、サービス管理責任者の役割についての説明がありました。後半は各事業所での実践報告や、日常業務で抱えている課題についてグループワークを行いました。

グループワークでは、「個別支援計画の作成方法と支援手順について、職員に助言を行っているが、周知できていないことがある」「個別支援計画の作成だけではなく、利用者が安全に安心して過ごせるように意識して取り組んでいる」「コロナ禍の中、感染症対策を行いながら支援にあたる職員の頑張りを労うことを心掛けている」などの発表があり、「自分が思うように支援が進まずに悩んでいたが、参加者の話を聞いて参考にしたい」などの感想がありました。

グループワークを終えて感じたことは、さまざまな悩みを抱えながらも、サービス向上のために尽力されていることです。他事業所の職員が集まり情報交換を行うことで、課題解決の糸口となるよう、今後もこのような情報交換会を企画して頂きたいと感じました。（広報委員 吉村周一）



Report 令和3年度 障害者支援施設部会 サービス管理責任者情報交換会

令和4年3月25日（金）大阪府社会福祉会館505号室にて、第57回近畿地区知的障害関係施設職員研修会を大阪が担当して開催致しました。

テーマは「対人援助専門職とは？」対人援助専門職の社会的価値と役割・地位の向上、専門職としての専門性・倫理・学びと成長・喜びとやりがいそして未来へ発信」としました。

午前の部では、「対人援助専門職とは何か」「ひと」と「社会」の視点から考える」というテーマで山口県立大学社会福祉学部・大学院健康福祉学研究所教授の水藤昌彦氏に基調講演を行っていただきました。

午後からは、2つのトークセッションを行い、第1部では「何故、対人援助専門職を職業として選んだのか／他者、自己を理解するとはどういうことか／対人援助にあたっての倫理とは何か」というテーマで、第2部では「対人援助専門職の学びと成長とは／社会の中での対人援助専門職の役割とは／社会に向けて発信するとはどういうことか」というテーマを、各種別ごとに現場で支援に従事している職員の方に登壇してもらい意見をいただきました。

研修会はZoomウェビナーを使用したリモート研修会の形を取りました。当日は会議室より午前・午後とライブ配信を行いました。参加者数は96名と対面による例年通りの研修会と比べると少し少なめではあったのですが、コロナ禍の中、対人援助専門職としてもう一度業務を見直す研修会となりました。（事務局長 中川博）



Report 第57回近畿地区知的障害 関係施設職員研修会

まだまだコロナウイルスの感染が収まっていない状況にあり、皆様、その対応に法人、施設を挙げて取り組んでおられること、たいへんご苦労しておられること、心より敬意を表します。今号では、コロナ禍における地域生活の現状と、対応方法について皆様にお伝えしたいと思い、記事にまとめました。（広報委員長 松嶋桂子）